



# 八幡はるみ *GARDEN*



## 展覧会プレスリリース

会期 2023年4月21日(金) ≫ 8月27日(日)



《Humidity in Asia》2022年 180.0×270.0 cm(45 cm角パネル 24枚による自由構成) 作家蔵

**M** ヤマザキマザック美術館  
THE YAMAZAKI MAZAK MUSEUM OF ART

〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30  
地下鉄東山線「新栄町」1番出口直結  
TEL : 052-937-3737

## 特別展「八幡はるみ GARDEN」開催のご案内

美しく咲き誇る花々、まばゆい光につつまれた溢れんばかりの緑。色あざやかな植物たちが大画面を埋め尽くす、八幡はるみのかぐわしき染色の世界をご紹介します。

八幡はるみ(1956年生まれ)は京都市立芸術大学で染色を学びました。1990年代初頭、楮紙をベースに「型」や「版」の技法を用いて、「青海波」などの古典文様を四曲一双屏風にダイナミックに展開した「水のシリーズ」等の発表によって、八幡は染色の枠に収まらない規格破りのアーティストとして知られるようになりました。その後、八幡は、ろうけつ染めや金銀箔をコラージュするなど、伝統的な技を活かしながら、量産にも耐えうるスクリーン・プリントを導入。時代にあった色彩感覚をとりこんでいくなどして、従来の染色がもっていた世界観を次々と解放していきます。

2000年代に入り、布に凹凸をつけてかたちづくった溝に染料を流し込んでいく「シェイプド・ダイ」という絞り染め技法を開発した八幡の表現は、より即興的に、より感覚的に、より色彩豊かに花開いていきます。

近年は、コンピューターによる画像加工やインクジェットプリントにも取り組んでおり、デジタル技術を取り入れた八幡の挑戦は、染色表現の地平をひろげ続けています。

色彩を開放し、技術革新に挑み、あらたな染色の魅力を発信しつづける八幡はるみの、1990年代の創成期から2023年の最新作までを展覧いたします。

ヤマザキマザック美術館

## 開催要綱

1. 展覧会名：「八幡はるみ GARDEN」
2. 会期：2023年4月21日(金)～8月27日(日)〈113日間開催〉
3. 会場：ヤマザキマザック美術館 461-0004 愛知県名古屋市東区葵 1-19-30  
電話 052-937-3737 / FAX 052-937-3789
4. 開館時間：平日 10:00～17:30 / 土日祝 10:00～17:00 ※入館は閉館の30分前まで
5. 休館日：月曜日(※5月1日、7月17日、8月14日は開館)、7月18日
6. 入館料：一般1300円(10名様以上1100円)、小・中・高生500円、小学生未満無料  
〔音声ガイド無料サービス〕
7. 主催：ヤマザキマザック美術館、中日新聞社
8. 協力：株式会社カセットミュージアム
9. 後援：愛知県教育委員会、岐阜県教育委員会、三重県教育委員会、名古屋市教育委員会、  
公益財団法人名古屋市文化振興事業団
10. 記者発表会：2023年4月21日(金) 14:00～15:00 (13:45より1階で受付開始)  
※当日は作家本人が来場致します。
11. 問い合わせ先：展覧会担当学芸員 坂上しのぶ Shinobu\_Sakagami@mazak.co.jp  
広報担当 西川由佳里 Yukari\_Nishikawa@mazak.co.jp



《GARDEN》2008-23年 225.0×1125.0 cm(75 cm角パネル 45枚) 作家蔵

展覧会構成：第一章 型や版の世界～1990年代

楮紙をベースに、「型」や「版」の技法を用いて、「青海波」など古典文様を四曲一双屏風にダイナミックに展開した「水のシリーズ」などを紹介。



《水のトンネル》1992年 180.0×480.0 cm(四曲一双屏風) 染・清流館蔵



《いつも水につつまれる》1992年 180.0×480.0 cm(四曲一双屏風) 国立国際美術館蔵



《長月の光》1995年 150.0×360.0 cm(六曲半双屏風) 作家蔵

## 展覧会構成：第二章 シェイプド・ダイの世界～2000年代

八幡が考案した「シェイプド・ダイ」という染め技法(布に凹凸をつけてかたちづくった溝に染料を流し込んでいく)※を用いて、感覚的に染め上げていく八幡の「あたらしい花の表現」を紹介します。



《Colors》2003年 182.0×534.0 cm 京都芸術大学蔵



《shangrila -Nami-》2008年 168.0×178.0 cm(二曲屏風)作家蔵

《shangrila》2009年 96.0×96.0 cm 作家蔵

### ※シェイプド・ダイ

絞り染めの一種で、折ったり曲げたりシワを寄せたりしてできた布の凹凸に、染料をしみこませて出来た色の濃淡をいかす表現方法。八幡のシェイプド・ダイは、布をたわませたり蛇腹にしたりして凹凸をつけ、注射器や霧吹きなどで染料をしみこませてできたにじみや濃淡をいかしている。

展覧会構成：第三章 デジタルプリントの世界～2000年代

コンピューターによる画像処理などのデジタル技法を用いた近作～最近作を紹介。



《ときわ》2013年 182.0×182.0 cm作家蔵



パネル(ジャカード刺繍) 30.0cm×5点 作家蔵



《Flower bed 2023 version》2023年 150.0×360.0 cm 作家蔵



《熱帯》2022年 67.0×96.0 cm 作家蔵

## 展 覧 会 関 連 イ ベ ン ト

### 八幡はるみさんと当館学芸員によるガイドツアー

製作の裏話や制作技法についてお伺いすると共に、展覧会の見どころをわかりやすく解説します。

参加無料※ただし要当日鑑賞券 / 定員 15名

申込方法：4月29日(土)よりお電話(052-937-3737)にて承ります。

日時：会期中の第2日曜日 10：30～11：30

[5月14日、6月11日、7月9日、8月13日]

### 当館学芸員によるガイドツアー

展覧会の見どころをわかりやすく解説します。

参加無料※ただし要当日鑑賞券 / 予約不要 / 定員 15名(先着順)

日時：会期中の第2・4土曜日 10：30～11：30

[4月22日、5月13日、5月27日、6月10日、6月24日、  
7月8日、7月22日、8月12日、8月26日]

\*新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはやむなく中止する場合があります。  
最新情報につきましては当館ホームページの「お知らせ」欄でご確認ください。

## 八幡はるみ略歴

- 1956年 大阪に生まれる  
 1980年 京都市立芸術大学卒業  
 1982年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修了

## [主な個展]

- 2008年 高島屋東京日本橋店 画廊X／東京  
 2011年 「八幡はるみ個展」 イムラアートギャラリー／京都  
 2013年 「八幡はるみ 工芸・東洋館を祝う」 大原美術館工芸館・東洋館／岡山  
 2018年 「—About Textile—」 ギャラリーサラ／滋賀  
 2022年 「八幡はるみ個展—宇宙を言祝ぐ—」 染・清流館／京都  
 2023年 「八幡はるみ GARDEN」 ヤマザキマザック美術館／愛知

## [主なグループ展]

- 1991年 「芸術祭典—京—、新古典空間学」 岩城邸／京都  
 1994年 「現代の染め」 国立国際美術館／大阪  
 1995年 「第1回美の予感」 高島屋／京都、大阪、東京、横浜  
 1996年 「日本の染織テキスタイル」 目黒区美術館／東京  
 1997年 「京都芸術新人賞 受賞作家展」 京都四条ギャラリー／京都  
 「シガ・アニュアル」 滋賀県立近代美術館／滋賀  
 「国立国際美術館の20年」 国立国際美術館／大阪  
 1999年 「京友禅 きのう・きょう・あした」 目黒区美術館／東京  
 2001年 「現代の布」 東京国立近代美術館／東京  
 2002年 「現代の工芸—素材と造形思考」 ペトロナスギャラリー／マレーシア  
 2007年 「〈素材×技術〉からフォルムへ」 茨城県つくば美術館／茨城  
 2008年 「『装飾』所蔵作品展」 東京国立近代美術館工芸館／東京  
 2010年 「近代染色の展開と現在」 茨城県つくば美術館／茨城  
 2013年 「Contemporary KOGEI Styles in Japan」 森上博物館／アメリカ  
 ～文化庁・外務省主催：現代の日本工芸展に招待出品  
 2015年 「琳派400年記念」 京都文化博物館／京都、日本橋高島屋／東京  
 2016年 「革新の工芸—“伝統と前衛”そして現代」 東京国立近代美術館／東京  
 2019年 「京都の染織」 京都国立近代美術館／京都  
 2020年 「京都美術文化賞受賞記念展」  
 京都府京都文化博物館／京都  
 2021年 「Colors」 京都芸術大学ギャラリー・オーブ／京都

Harumi

Yamazaki





## 特別展「八幡はるみ GARDEN」(2023/4/21~8/27)

## 情報掲載用画像・読者プレゼント用招待券利用申込書

- ・「八幡はるみ GARDEN」展の情報掲載の際に、下記の画像をご使用いただくことができます。※展覧会終了後は使用することができません。
- ・画像をご使用の際は必ずキャプションを併記願います。
- ・画像はトリミングや字のせなどの加工をせずにそのままの形でお使いください。

貴社名		ご担当者名	
媒体名	✓をご記入ください。 □紙媒体 □Web □その他( )		
画像番号	次ページの画像一覧をご参照のうえ、掲載を希望される画像の番号に○をお付けください。 担当者が申込書を確認の後、データをご提供致します。		
	1	2	3 4 5 6 7 8 9 10
ご住所	〒		
ご連絡先	TEL	FAX	MAIL
ご掲載予定日	*保管用に見本誌を1部お送りいただけますと幸いです。		

- ・画像を使用して展覧会情報をご掲載いただける場合、読者プレゼント用に招待券をご提供可能です。

下記に○を付けてご回答ください。

→ 招待券の提供を ( 希望する ・ 希望しない )

└→ 必要枚数は ( 3組6名分 ・ 5組10名分 )

## 掲載用展覧会概要文

\*記事作成の際にご活用ください。

〔300文字程度〕

美しく咲き誇る花々、まばゆい光につつまれた溢れんばかりの緑。色あざやかな植物たちが大画面を埋め尽くす、染色作家 八幡はるみ(1956-)のかぐわしき染色の世界をご紹介します。

1990年代初頭、「青海波」などの古典文様を四曲一双屏風にダイナミックに展開した「水のシリーズ」の発表によって、八幡はるみは染色の枠に収まらない規格破りのアーティストとして知られるようになりました。近年は、デジタルプリントを導入し、時代にあった色彩感覚を取り入れるなど、染色の地平をひろげ続けています。








色彩を開放し、技術革新に挑み、あらたな染色の魅力を発信しつづける八幡はるみの、1990年代の創成期から2023年の最新作までを展観します。

〔100文字程度〕

美しく咲き誇る花々、まばゆい光につつまれた溢れんばかりの緑。色あざやかな植物たちが大画面を埋め尽くす、染色作家 八幡はるみ(1956-)の1990年代から2023年の最新作までをご紹介します。かぐわしき染色の世界をご堪能ください。

お問い合わせ先：ヤマザキマザック美術館 企画課 広報担当 西川 由佳里

TEL 052-937-3737 / FAX 052-937-3789 / MAIL Yukari\_Nishikawa@mazak.co.jp

1		6	
キャプション		キャプション	
八幡はるみ 《Shangrila》 2009年		《GARDEN うこんの筒》 2008-23年	
2		7	
キャプション		キャプション	
八幡はるみ 《Shangrila -Nami-》 2008年		八幡はるみ 《GARDEN 黄色い花2、友禅、黄色い花1、ゴム、やつで、plantation—深紅、黒いしべ、フラワーズ、桃うこん》 2008-2023年	
3		8	
キャプション		キャプション	
八幡はるみ 《熱帯》 2022年		八幡はるみ 《Flower bed 2023 version》 2023年	
4		9	
キャプション		キャプション	
八幡はるみ 《Humidity in Asia》 2022年		ポスター画像	
5		10	
キャプション		キャプション	
八幡はるみ 《GARDEN 初夏》 2008-23年		作家ポートレート	

## 美術館について

当美術館の収蔵コレクションは、ヴァトー、ブーシェ、フラゴナール、シャルダンといった18世紀フランスを代表する巨匠たちが活躍したロココの時代から、新古典主義のアンゲル、ロマン主義を代表するドラクロワ、写実主義、印象派、そしてエコール・ド・パリ等、18世紀から20世紀に至るフランス美術300年の流れが一望できる内容で構成されています。さらには、19世紀末にフランスを中心に花開いたアール・ヌーヴォーを代表する工芸家であるガレをはじめとする、様々な作家達のガラス工芸品と家具調度品のコレクションも常設展示しています。

外国の美術館を訪れたような心持ちで、フランス美術に触れ親しんでいただけるゆとりの空間をご提供しています。

